

第2学年社会科学学習指導案

日時 平成21年11月19日(木)

生徒 2年A組(男子16名 女子16名 計32名)

場所 2年A組教室

授業者 教諭 柏木 剛

1 単元名 第5章 開国と近代日本の歩み 第3節 日清・日露戦争と近代産業 (新しい社会 歴史 東京書籍)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領(歴史的分野)の内容である自由民権運動と大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。((5)ーウ)

また、わが国の産業革命、国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを通して、我が国で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解させること((5)ーエ)を主なねらいとしている。

この時期の我が国新政府の抱える課題は、欧米列強に対抗しうる力を早期に育成し、独立国家として自立することにあつた。そのため、政府は徴兵令、地租改正、殖産興業、学制をはじめ、政治、軍事、経済などあらゆる分野での改革を推進した。しかし、あまりに改革の動きが性急だったため、様々な社会的混乱や国民各層からの抵抗を巻き起こすこととなる。このような明治維新を経て、専制政治を批判するという形で、自由民権運動が盛んになる。

一方で政府は、着々と立憲政治への転換のため準備を進め、大日本帝国憲法の発布、帝国議会の開設などを経て、アジアで唯一の立憲国家となっていく。

この間に日本をめぐる国際関係も変化し、イギリスはロシアの積極的な極東進出に対抗するため、日本の条約改正に応じる。日本は朝鮮の支配権をめぐり以前から対立していた清国と衝突し、日清戦争に至る。

軍備の近代化を進めてきた日本が勝利するが、ロシア・フランス・ドイツの三国干渉もあり、日本の反ロシア感情は高まっていく。大陸進出の機会をうかがっていた日本は、ロシアと真向から対立し、日英同盟を経て、日露戦争に至る。この戦争にも日本が勝利し、日清・日露戦争の二度にわたる戦争の勝利やその背景にある日本の近代化によって、我が国の国際的な地位が向上していくこととなった。

一方で、政府の保護政策の下に出発した我が国の産業・経済が、日清戦争前後から飛躍的に発展し、我が国でも産業革命が起こった時期でもある。それを支えたのは、教育制度の整備・拡充による学問、科学技術などの近代文化の形成が大きな役割を果たした時期である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、男女とも落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいる。また、与えられた課題や作業等にも真剣に取り組む姿勢が見られる。歴史的分野については多くの生徒が各年代における出来事に対し、興味を持って取り組んでいる生徒が多い。

しかし、単なる語句の暗記や簡単な資料の読み取りであれば積極的な生徒が多いが、文章や資料からの読み取りを基にした思考や他の生徒の発言を考慮に入れた思考については短絡的だったり、消極的になったりする姿が見られる。また、改まった場での発表や意見交換、自分の

考えや根拠を明確にしながらまとめることを苦手としている生徒が多いと感じる。

(3) 指導観

当時の我が国の立憲制の成立の様子や急速な近代化、産業革命、近代文化の形成については、それに関わる過程について調べさせる活動を通して捉えさせたい。

また、我が国の国際的な地位の向上と大陸との関係については、日清・日露戦争における国内外への影響や国際関係の変化について考えさせることで理解につなげたい。本単元に相等する小学校での学習内容の定着度を見る確認テストでは、定着度が低かったため、導入段階での前時の復習テスト、終学習、家庭学習で同じ問題に繰り返し取り組ませることで定着を図りたい。

思考を伴う場面では3～4名程度のグループをつくり、自分の考えを述べ、意見交流を行うことで、苦手とする根拠を明確にしながらまとめ、様々な視点から考える力を育てたい。

また、振り返りカードを利用し、本時の振り返りとさらに学習したい内容などを記入させ、生徒の考えを活かした授業を展開することで関心・意欲を高めることも狙いたい。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係の対する関心を高め、意欲的に追及しようとする。

【思考・判断】

19世紀後半の歴史的な事象を通して、我が国の近代化や国際的地位の向上、大陸との関係のあらましを多面的・多角的に考察できる。

【技能・表現】

急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましや近代文化の形成の様子について資料を基に、追及し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる。

【知識・理解】

急速に近代化を進めた我が国の様子について国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを当時の国際情勢を背景にし、理解できる。

4 指導計画と評価規準 (8時間計画 本時5時間目)

学習内容	時数	評価規準
1 欧米列強の侵略と条約改正	2	・条約改正に至るまでの過程について、人々の努力や国際情勢と関連させながら関心を持って意欲的に追究している。(関心・意欲・態度) ・日清戦争の背景としての欧米諸国の植民地獲得競争に気づき、東アジアの情勢を理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
2 日清戦争	2	・日本を取り巻く、当時の国際関係について、資料から読み取り、説明している。(技能・表現) ・日清戦争の結果、どのように国際関係が変化したかを考察している。(思考・判断) ・日清戦争の原因と結果、その後の日本内外の情勢を理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)

3 日露戦争 (本時1/2)	2	<ul style="list-style-type: none"> 日露戦争開戦に向けての日本の動きや戦争後の国内外への影響について関心を持つとともに意欲的に追究している。(関心・意欲・態度) 日本がロシアとの戦争に踏み切った理由について多面的・多角的に考察している。(思考・判断) 日露戦争の概要と経過についてその知識を身につけている。(知識・理解)
4 韓国と中国	1	<ul style="list-style-type: none"> 韓国の植民地化の動きを、抵抗運動、土地問題、教育の点から考察し、公正に判断している。(思考・判断) 韓国の植民地化の進展や中国国内の様子をのあらましを理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
5 産業革命の進展	1	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命で都市や農村・漁村の生活が変化したことに関心を持つとともに、一方で労働問題や社会問題が発生している点にも気づき、意欲的に追究している。(関心・意欲・態度) 鉄道の広がりや産業の発展を、地図やグラフを使って調べ、説明している。(技能・表現)

5 本時の学習活動

(1) 本時の目標

- 日露戦争開戦に向けての日本の動きについて関心を持ち、意欲的に追究する。(関心・意欲・態度)
- 日本がロシアとの戦争に踏み切った理由について、当時の国内の世論や国際情勢を踏まえて考えることができる。(思考・判断)

(2) 本時の評価

観点	具体的評価規準		努力を要する生徒への支援
	A：十分満足できる。	B：おおむね満足できる。	
関心・意欲・態度	振り返りカードに本時の学習内容について感じたことや関心を持ったこと、新たな疑問について記入している。	振り返りカードに本時の学習について感じたことについて記入している。	机間指導をしながら、本時の学習プリントなどを振り返るよう指示する。
思考・判断	日本国内の世論や当時の国際情勢を踏まえて、様々な角度から日露戦争開戦の理由を書くことができる。	資料を基に日本が日露戦争に踏み切った理由について書くことができる。	机間指導をしながら、考える視点を与えたり、グループ発表の内容を積極的に取り入れるよう指示する。

(3) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 ◇教師の指導 ◆評価
導入 10分	①前時の復習 ②課題把握 ③学習課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した内容について確認を行なう。 ・資料を提示し、学習課題を考える。(一斉) ・本時の学習課題を提示する。(一斉) ・学習課題を学習プリントに記入する。(一斉) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時までに関わる語句のテスト ◇資料提示 (PC) <ul style="list-style-type: none"> ・ 宣戦布告書 ・ 日・露の戦力比較 ◇学習プリントの配布
展開 35分	なぜ、日本は列強ロシアと戦争をすることとなったのか？		
	④課題に対する予想 ⑤課題の追究 ⑥課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題について予想し、発表する。(個人) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (生徒の予想) ・ 清への侵略を恐れたから。 ・ 日清戦争で自信を持ったから </div> ・ 資料を配布し、3～4人のグループを作り、当時の日本がおかれている状況について話し合う。 (グループ) ・ 各グループから話し合った内容について発表を行う。 (一斉) ・ 各グループの発表をもとに当時の日本のおかれた状況について整理する。 (一斉) ・ 資料を用いて、国内に反戦論があった事にも触れる。 (一斉) ・ 日露戦争開戦の理由について考え、学習プリントに記入させ、発表させる。 (個・一斉) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> (資料内容) ①ひとすじの道 ②東アジアの情勢 ③ビゴー風刺画 </div> ☆補助資料提示 (PC) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (資料内容) ①当時の世論 ②義和団事件 ③日英同盟 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇資料提示 (PC) <ul style="list-style-type: none"> ・ 幸徳秋水手記、 ◆思考・判断 方法：学習プリント
終末 5分	⑦本時の振り返り ⑧次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカードへ本時の学習内容について感じたことや関心を持ったこと、新たに疑問に思ったことなどを記入する。 ・ 次時に学習することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆関心・意欲・態度 方法：振り返りカード

(4) 板書計画

学習課題	なぜ、日本は列強ロシアと戦争をすることとなったのか？			
語句チェック	☆日本が列強ロシアと戦争をすることとなった理由は？			
①甲午農民戦争 ②日清戦争 ③下関条約 ④三国干渉 ⑤リャオトン半島	国民の声	ロシアへの危機感		英の後ろ盾

				義和団事件（1899年）
				日英同盟（1902年）
				まとめ
				主戦論の高まり、ロシアの中国侵略による危機感、日英同盟によるイギリスの後ろ盾を得たことで、戦争へ踏み切ることとした。